

令和6年度倉吉市あらゆる差別をなくする審議会議事録

- 1 日 時 令和6年12月20日（金）午後1時00分から午後2時30分まで
- 2 場 所 倉吉市役所第2庁舎3階303会議室（倉吉市堺町2丁目）
- 3 出席者 委員9名（全委員16名）、事務局（市民生活部長、人権政策課）4名
- 4 協議事項概要 ○：委員発言

（1）議事録の取扱い及び委員の交代について

審議会での活発な議論を行うため、議事録は要約形式で、発言者の氏名を表記せず作成する。また、倉吉市中学校校長会の代表委員が変更になったことを報告する。

（2）倉吉市あらゆる差別をなくする総合計画の進捗状況について

進捗状況について事務局から以下のとおり説明。

資料2、資料3について概要を説明。事前資料配付のため、資料3の詳細については説明せず。資料3に基づき作成した、資料4で推進方針と意図・目的、現状と今後の方向性について説明。

主な質疑応答。

○子どもの権利について知る教育はどうか。大人もだが、子ども自身が知ることが大切。現在やっている取り組みの中に意識して学ぶ場を取り入れてほしい。

○若者への学習機会の提供について集合型も良いが、各メディアを利用した啓発はどうか（事務局）本年度YouTubeでの啓発も実施した。継続する。

○医療的ケア児が地域の学校にも行きやすいよう地域の雰囲気醸成をしてほしい。計画にも盛り込んでほしい。

（事務局）合理的配慮の義務化がある。希望に沿った体制がとれるように啓発していきたい。

○メディアリテラシーの問題。TikTok等でのショート動画で差別的動画が拡散している。一瞬の情報が、差別的な感情として心に残る。情報モラル教育も新しい対策が必要になっている。若い年代だけでなく、大人向けの啓発も必要。災害の度に外国人等への差別的投稿がある。子どもや大人、両方の啓発が大切。

○地区学習会の現状について。学習会をしているのか。参加者が減少しているのか。

（事務局）小学校の統合により、今年度は学習会ができていないところがある。人権文化センターができることを提案しながら、早期の再開にむけ模索中。他の地区では参加者の減少はあるが実施している。

○日本語教室の運営の指標について説明を。支援者が不足している。支援者の確保の取り組みは。

（事務局）参加により日本語の習得状況について少しでも能力向上があった者の率を計上したものの。支援者の確保については、市報掲載等を行っている。確保にむけて、できることをしていく。

(3) 市民意識調査(案)について

資料5について事務局から説明。

資料5は、前回令和元年にも実施した市民意識調査を本年度実施しようとするもの。内容は、経年経過を見るため概ね大きな変更は無いが、必要な質問項目を精査し設定した。同じような質問項目においても、問い方や標記を変更し答えやすいようにしたもの。

◆質問項目を順番に説明する

以下委員より出た主な意見(概要)

- SNSの説明書きについて
- 表現の統一した方が良い部分の設問について
- 選択肢追加の提案
- 性別の問い方について
- 設問による選択数について
- 電子回答の手法について
- 障がい者への合理的配慮について
- 設問へのルビについて

などについて意見交換を行い、必要な修正変更を行うこととした。

その他について。

次期審議委員の選出について協力を依頼。

議事終了。